

# 水と緑と

## — 盛夏には打ち水で涼を —

先人の知恵には、現代でも十分に活用できるものがたくさんあります。特に、江戸時代の資源循環を基調とした環境負荷の少ない暮らしは、最近になっていっそう注目されています。夏の暑さは、江戸時代であっても同じはず。電気に依存しない当時の庶民はどのようにして暑さをしのいでいたのでしょうか？

家づくりでは風通しを良くする工夫をしながら、簾(すだれ)、よしず、蚊帳(かや)などを使っていたといいます。当然のことながら扇風機やエアコンはありませんので、団扇(うちわ)で涼をとり、行水や夕涼みを楽しみにしていたようです。江戸時代のお盆の行事として始まった花火大会は、さながら現代版のクールシェアですね。見るからに涼しそうな浴衣を、現代のクールビズに取り入れようという動きもあります。



往時から日常のひとつまとして取り入れられていたのが「打ち水」。道の土ほこりを抑えるためのものだったようですが、涼しさを得る工夫としても広まったようです。現代の市街地では、道路はアスファルトなどに舗装され、地表面は灼熱となります。こんな時にこそ、打ち水が威力を発揮します。

8月初旬に行われる『善光寺打ち水』というイベントが毎年の恒例行事になってきました。長野商工会議所女性会の皆様が呼びかけ、長野県や長野市などの行政機関や地元区、関係団体、飛び入りの観光客などが、賑やかに打ち水をします。沿道の井戸水を使った「打ち水用水」での打ち水は本格的なものです。午後の暑い時間帯の打ち水では、石畳の温度を10℃以上も下げる効果が確認できたこともあります。

実際に家庭で取り組む場合は、気温の上昇する前の朝や、温度が下がりはじめた夕方の時間帯が涼を得るには効果的です。また茶道の作法では、打ち水にはお出迎えやおもてなしの意味があります。ぜひ皆さんも自宅や職場で打ち水をはじめてみてはいかがでしょうか。

(文・写真提供：NPO 法人 CO2 バンク推進機構 理事長 宮入賢一郎)

### ふるさと紹介 長野市

## 世界と長野市を芸術で結ぶ、 新しい交流・創造拠点へ



メインホール 1,292 席 (音楽主目的の多機能ホール)

5月8日、長野市の新しい文化芸術の交流・創造拠点として、「長野市芸術館」が誕生しました。

芸術館は、大小3つのホールを備え、バンド・音楽・演劇用の練習室や、舞台と同じ広さを有するリハーサル室、絵画や写真などを展示するサロン、舞台備品を製作するアトリエなど、様々な文化芸術を発信し、そして、創造する取り組みを支援する機能を合わせ持つ交流拠点です。



リサیتالホール 293 席  
(生の音を重視した音楽専用ホール)

含む全ての施設の一般貸出しがスタートします。鑑賞だけではなく、発表会の開催や日頃の練習にも気軽にご利用ください。

また、芸術館の芸術監督には、宮崎駿監督の映画音楽で有名な作曲家 久石譲氏に就任していただいております。本年度は、多彩で魅力あふれるオープニングシリーズを多数用意しています。皆様のお越しを心よりお待ちしております。



アクトスペース 219 席  
(演劇主体の可変型多目的ホール)